

令和2年度 経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業
成果報告書

実施機関名（三重県教育委員会）

1. 問題意識・提案背景

- (1) 本県は、平成27年3月に三重県特別支援教育推進基本計画を策定し、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育を推進してきた。令和2年3月に、「みえ県民力ビジョン」「三重県教育ビジョン」及び三重県特別支援教育推進基本計画を改定し、特別支援教育の推進を重要な施策の一つとして位置づけ取組を進めている。
- (2) 平成28年度と平成29年度には、「通級による指導担当教員等専門性充実事業」に取り組み、発達障害のある児童生徒の特性の理解や実態の把握、具体的な指導・支援の方法や教材・教具の活用等に係る内容を設定した研修講座、通級による指導担当教員と特別支援学校の特別支援教育コーディネーター（以下、「特別支援学校コーディネーター」という。）との連携、三重県立子ども心身発達医療センターに併設するかがやき特別支援学校が主催する研修会を実施し、通級による指導担当教員の専門性の向上と指導者の育成を図ってきた。通級による指導担当教員等を対象とした研修講座については、令和元年度まで継続して取り組んできた。
- (3) 平成30年度と令和元年度には、「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業」に取り組み、通常の学級担任と通級による指導担当教員が連携し、通常の学級において発達障害の可能性のある児童生徒が学習上つまづくことなく学習内容を理解できるよう、通級による指導における指導や支援のノウハウの活用について研究を進めてきた。
- (4) 令和元年度は、県立伊勢まなび高等学校における通級による指導を開始するとともに、「発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業」に取り組み、高等学校における通級による指導の在り方について実践研究を進めるとともに、実践事例の蓄積を図ってきた。高等学校における発達障害支援については、臨床発達心理士の資格を持つ発達障害支援コーディネーター（以下、「発達障がい支援員」という。）による巡回相談等の取組を継続して実施しているが、発達障害支援の更なる充実を図るため、通級による指導担当教員を育成するとともに、特別支援学校のセンター的機能を活用した高等学校における支援の在り方について検討していく必要がある。

2. 目的・目標

- (1) 通常の学級や通級による指導の経験の浅い教員の指導・支援に係る専門性の向上のため、効果的な研修等を実施するとともに、支援体制の改善を図る。
- (2) 通常の学級や通級による指導の経験の浅い教員が日々の指導・支援等に関して一人で悩むことのないよう相談先の整理や指導的立場の教員による指導・助言等サポート体制の構築を図る。
- (3) 大学の教員養成課程における「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」について、地域や学校現場で求められているニーズに対応した教育内容とするため、発達障害に関する講座の教授法について検討を行う。

3. 実施体制

(1) 運営協議会

ア. 参加者

所属・職名	名前
三重大学・教授	菊池 紀彦
三重大学・准教授	郷右近 歩
発達障がい支援員スーパーバイザー	小栗 正幸
三重県立かがやき特別支援学校・校長	森井 博之
三重県立かがやき特別支援学校特別支援教育コーディネーター・教諭	谷崎 正純
津市立育生小学校 通級による指導担当教員・教諭	辻 大輔
三重県子ども・福祉部・障がい福祉課主幹	奥田 秀樹
三重県教育委員会事務局・主幹兼係長兼研修主事	田口 万紀
三重県教育委員会事務局・指導主事	加藤 謙司
三重県教育委員会事務局・指導主事	石川 真史

イ. 開催実績

実施日	内容
3月4日(木) オンラインによる開催	・今年度の取組について ・三重大学現行講座「特別支援教育入門」の教授法について ・来年度の取組について

(2) 連携した大学

国立大学法人三重大学

(3) 専門家の活用

ア. 専門性（特別支援教育など）に関する経歴・所有資格等

- ・三重大学教育学部教授

日本特殊教育学会 日本 LD 学会 日本児童青年精神医学会 日本犯罪心理学会 日本教育心理学会 各会員 等

- ・皇學館大学教育学部准教授

臨床心理士、学校心理士、上級教育カウンセラー、ガイダンスカウンセラー 等

- ・発達障がい支援員スーパーバイザー

元鳥取少年鑑別所長、宮川医療少年院長（平成21年3月退官）、三重県教育委員会発達障がい支援員スーパーバイザー、四日市市教育委員会教育支援課スーパーバイザー、宇部フロンティア大学臨床教授、日本 LD 学会代議員・編集委員 特別支援教育士スーパーバイザー（学会連携資格）

イ. 配置状況、活動内容

- ・大学教授は、発達障がい支援アドバイザーの養成のための研修に係る講義等を行う。各地域における困難なケースに対応できるための支援の方法等について指導・助言を行う。
- ・発達障がい支援員スーパーバイザーは、発達障がい支援員や特別支援学校コーディネーター等に対して、困難なケースに対応できる支援の方法等についての指導・助言を行う。

- ・発達障がい支援員スーパーバイザーは、運営協議会に参加し、教員養成課程における教授法や発達障害支援に係るサポート体制について指導・助言する。

4. 取組概要・成果（取組全体の概要図は別途参照）

発達障害の可能性のある児童生徒への指導・支援に係る教員の専門性の向上を図るため、教員としての資質の向上に関する指標（※1）に対応した研修等を実施した。

※1 教員として資質向上に関する指標

資質能力にかかる項目	教職を担うに当たり必要とされる専門性
	教育課題への対応力
	特別支援教育
教職着任時	特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の必要性と、児童生徒が互いを尊重し、共に学ぶことの大切さを理解している。
第1ステージ	特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態の把握に基づく指導・支援を行うことができる。また、他の教職員と連携・協力しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第2ステージ	特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態を把握し、指導内容や指導方法を工夫して適切な指導・支援を行うことができる。また、教職員間の共通理解を図りながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第3ステージ	特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、教職員間の共通理解を深めながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第4ステージ	特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、他の教職員に指導・助言しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を組織的に実践することができる。

(1) 教員の専門性向上のための研修等の機会の充実

ア. 発達障がい専門研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	・通級による指導担当教員	10月29日	オンライン	講義：「通級指導教室の基礎・基本」 講師：津市立育生小学校教諭 辻 大輔
2	・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員 等 (第1・第2ステージ)	10月29日	オンライン	講義：「チェックリストを活用した読み書きに関する支援」 講師：県立かがやき特別支援学校 あすなる分校教諭 谷崎 正純
3	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター	10月16日	オンライン	講義：「学習につまずきがある児童・生徒の支援①」 講師：大阪医科大学LDセンター 奥村 智人
4	・高等学校の教員 等 (第2・第3ステージ)	10月16日	オンライン	講義：「学習につまずきがある児童・生徒の支援②」 講師：大阪医科大学LDセンター 奥村 智人
5	・通級による指導担当教員	11月12日	集合研修	講義：「検査結果の解釈と支援①」 講師：日本臨床発達心理士会 大六一志
6	・特別支援学校コーディネーター	11月12日	集合研修	講義：「検査結果の解釈と支援②」 講師：日本臨床発達心理士会 大六一志

	・高等学校の教員 等 (第2・第3ステージ)			
7	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター	12月11日	オンライン	講義：「実態把握と支援の実際」 講師：国立特別支援教育総合研究所 海津 亜希子
8	・高等学校の教員 等 (第3ステージ)	12月11日	オンライン	講義：「児童生徒の評価」 講師：国立特別支援教育総合研究所 海津 亜希子
○主な成果				
<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質向上に関する指標を基に、教員の発達障害支援の経験やニーズに対応した研修会を実施することで、専門性の向上につながった。 ・オンラインやオンデマンドによる研修を実施することで、授業や研修会場への移動等で受講が困難な教員の研修機会の確保につながった。 				

イ. 発達障がいエリア研修

エリア	対象	実施日	研修形態	内容
北勢	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員 等 (第1～第3ステージ)	12月24日	オンライン	講演：「行動面・読み書き計算面の困り感に対する指導・支援方法の情報共有」 講師：桑名市立長島中部小学校教諭 城 直司
中勢		10月1日	集合研修	報告：特別支援学校におけるセンター的機能の充実～高等学校との連携・取組状況の報告～ 情報交換：高等学校における特別支援教育等
伊賀		10月30日	集合研修	講演：「発達障がいのある児童・生徒の特性を踏まえた指導・支援」 講師：三重大学教育学部講師 森 浩平 情報交換：日頃の指導で困っていることや悩み等
松阪・南勢・志摩		11月30日	集合研修	講演：「アセスメントから指導・支援への実践について」 講師：県立松阪あゆみ特別支援学校教諭 石井 幸仁 情報交換：地域や学校で抱える課題等の情報共有
東紀州		12月3日	集合研修	講演：「津市における通級指導教室の実践例や支援体制作り等について」 講師：津市立育生小学校教諭 辻 大輔 情報交換：具体的な事例を基にした教材や指導法 等
○主な成果				
<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員と特別支援学校コーディネーターが指導方法や関係機関等の情報を共有することで各エリアでの連携が深まった。 ・通級による指導の経験の豊かな教員や特別支援学校コーディネーターが、経験の浅い教員への具体的な指導方法や教材の紹介についてアドバイスを行うことで、経験の浅い教員の専門性の向上につながった。 ・経験の浅い教員が指導方法等で困った時に、一人で悩むことがなく、特別支援学校コーディネーターに相談しやすくなった。 				

ウ. 発達障がい支援研修

回	対象	配信期間	研修形態	内容
1		11月30日 ～ 12月25日	ネットDE 研修（オン デマンド）	講演：「教室でできる認知行動療法 ～パニック行動を繰り返す子ども たちの理解と対応～」 講師：三重大学教育学部 教授 松浦 直己
2	・通級による指導担当教 員 ・特別支援学校コディ ネーター	11月30日 ～ 12月25日	ネットDE 研修	講演：「あすなる分校の取組について」 講師：県立かがやき特別支援学校 あすなる分校教員
3	・小中高等学校の教員等 (第1～第3ステージ)	2月8日 ～ 3月26日	ネットDE 研修	講演：「ゲーム障害」～ゲーム・ネッ トに依存する子どもへの支援～ 講師：県立子ども心身発達医療センタ ー医師 大立 博昭 講演：「VR 機器を用いたソーシャルス キルトレーニングの取組」 講師：県立かがやき特別支援学校 あすなる分校教諭 斎藤 志保
<p>○主な成果</p> <p>・医療と連携した発達障害支援を行うかがやき特別支援学校あすなる分校の実践や外部機関（三重大学やICT企業）と連携した取組を通して、多様な発達障害支援の取組を知る機会となり、専門性の向上につながった。</p>				

エ. 発達障がい支援実地研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 5	・特別支援学校コディ ネーター (第2～第3ステー ジ)	① 9月9日 ～9月11日 ② 9月17日 ～9月18日 ③ 9月23日 ～9月25日 ④ 12月9日 ～12月10日 ④ 1月13日 ～1月15日	集合研修	・発達障害のある児童生徒の実態把 握（授業参観） ・発達障害の特性に応じた指導・支 援（授業参観） ・県立かがやき特別支援学校の医療 と連携した発達障害支援の取組（講 義・事例検討）
<p>○主な成果</p> <p>・発達障害支援の機会が少ない特別支援学校コディネーターが、かがやき特別支援学校あすなる分校の取組を体験的に研修することで、発達障害支援の専門性の向上につながった。</p> <p>・特別支援学校コディネーターが、小中学校から要請があった発達障害支援について対応が困難な場合、かがやき特別支援学校あすなる分校に相談するなど連携を深める機会となった。</p>				

オ. 特別支援学級等新担当教員研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	・特別支援学級を新たに 担当する教員 ・通級による指導を新た に担当する教員 (第1ステージ)	5月12日 ～ 6月19日	ネットDE 研修	講義：「三重県の特別支援教育につい て」 講師：県教育委員会 特別支援教育 課 講義：「特別支援学級等担当の心構 え」 講師：元三重大学教育学部附属特別 支援学校教頭 中谷 裕美

2		5月12日 ～ 7月31日	ネットDE 研修 ①～⑬の中から 2講座選択	①「NITS 校内研修シリーズ No17 特別支援教育の実際」 ②「NITS 校内研修シリーズ No20 特別支援教育総論」 ③「ICT を活用した支援」 ④「医療的ケアを必要とする子ども と家族が地域で暮らすこと」 ⑤「気になる子どもへの指導と保護 者支援の実際」 ⑥「特別支援教育 ～通常の学級に おける教科指導～」 ⑧「手話入門～コミュニケーション をとるために～」 ⑨「発達障がいのある子のための教 育支援モデル」 ⑩「クラスの中にいる『気になる子 ども』をどう支援するか」 ⑪「特別支援教育における『個別の 指導計画』」 ⑫「通常学級で無理なくできるユニ バーサルデザイン～あったかクラス づくり～」 ⑬「学級づくりに活かすソーシャル スキルトレーニング」	
		①8月17日 ②8月24日 ③7月30日 ～ 9月30日 ④7月30日 ～ 9月30日		①②オンライ ン ③④ネット DE 研修 ①～④の中 から1講座 選択	①「通常学級における特別な支援」 講師：桃山学院教育大学教授 松久 眞実 ②「ICT を学習と指導に活かす – 特別支援教育の視点から–」 香川大学教授 坂井 聡 ③「困り感を持つ子への支援 –実 態把握と支援の方法–」県教育委員 会 教科等研修班長 伊藤 敦子 ④特別支援教育基礎講座1「初めて の特別支援教育 –実践につながる 知識とスキル–」県立特別支援学校 玉城わかば学園校長 越知 ひとみ
		7月1日 ～1月29日			令和2年度 県立特別支援学校が行 う公開講座
○主な成果 ・特別支援学級や通級による指導を新たに担当する教員が、障害の特性に応じた適切な支援の方法や特別支援学級経営等の具体的事例等について、ネット DE 研修を利用して学び、担当教員としての資質向上を図ることができた。					

カ. 発達障がい支援アドバイザー養成研修（1期生前期 15 座）

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 15	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校の教員 ・市町教育委員会指導主事 (第4ステージ)	8月3日 8月4日 8月6日 8月7日 10月9日 10月15日 10月16日	集合研修	講義： ・ボーダーラインと検査結果の解釈 ・ADHD ・自閉スペクトラム症 ・発達性ディスレクシア ・強度行動障害 ・反抗挑発症、間欠暴発症

		12月1日 12月10日 12月17日 12月24日 12月25日 1月14日 1月26日 2月2日		<ul style="list-style-type: none"> ・愛着障害 ・神経学的基礎理解 ・発達障害児への薬物治療 ・知能とは ・ワーキングメモリーとは 等 講師：三重大学教育学部教授 松浦 直己
○主な成果 ・各地域の指導的立場である発達障がい支援アドバイザーが、発達障害支援に係る高度な指導・支援の専門性を学ぶことで、各地域における発達障害支援を中心的に担う教員の育成につながった。				

(2) 経験の浅い教員への指導・助言などのサポート体制の構築

ア. 通級による指導等専門性充実検討会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員スーパーバイザー ・皇學館大學教授 	10月1日	県立伊勢まなび高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における通級による指導について ・伊勢まなび高等学校での通級による指導について
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校特別支援教育コーディネーター 	12月24日	県立みえ夢学園高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察報告 ・みえ夢学園高等学校における発達障害支援の現状について ・通級による指導の対象となる生徒
3	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員 	2月17日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・みえ夢学園高等学校における通級による指導について（教育課程、対象生徒について）
○主な成果 ・伊勢まなび高等学校におけるコミュニケーションスキルを高める取組や自分の特性と職種のマッチングなどの通級による指導のノウハウや実践事例を基に、新たに通級による指導を行うみえ夢学園高等学校が通級による指導を円滑に実施できるよう、生徒・保護者への説明や受講生の決定、教育課程の編成、教員研修等の在り方について検討するなど高等学校における通級による指導の教員や高等学校特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図ることができた。				

イ. 発達障がい支援情報交換会

回	参加者	実施日	場所等	内容
1		4月10日	県吉田山会館	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における通級による指導について ・県内高等学校の発達障害支援について
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員スーパーバイザー ・発達障がい支援員 ・特別支援学校コーディネーター 	5月15日	県吉田山会館	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎ実績について
3		8月7日	県庁	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換：高等学校の発達障害支援の現状
4		10月2日	県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・中高引継ぎリーフレットについて
5		12月4日	県庁	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における通級による指導について ・中高引継ぎリーフレットについて ・特別支援学校センター的機能ガイ

				ドブックの改定について
6		1月22日	県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・高等学校における特別支援学校のセンター的機能の充実について
7		3月5日	県吉田山会館	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の取組について
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員と特別支援学校コーディネーターが、県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報を共有し、特別支援学校コーディネーターが高等学校への発達障害支援を行う際の内容や手続きについて検討し、特別支援学校のセンター的機能の効果的に活用できるような特別支援学校センター的機能ガイドブックに高等学校の教員が活用できるようまとめた。 				

ウ. 高等学校特別支援教育コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員スーパーバイザー ・発達障がい支援員 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校コーディネーター 	10月2日	オンライン 会議（特別支援学校コーディネーター会議合同開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について ・講義①：「大学入試の合理的配慮について」 三重大学学務部入試課 福場 博文 ・講義②：「就労における障がいのオープン、クローズについて」 三重県自閉症・発達障害支援センター れんげ 本地 知加子
2		1月22日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・情報交換会（グループ別） テーマ①：校内の特別支援教育の現状について テーマ②：特別支援教育コーディネーター業務の引継ぎについて
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて、高等学校において必要とする支援情報が適切、かつ確実に引き継がれるよう、引き継ぐ内容や効果的な引継ぎ方法、支援ツールの書式について引き続き検討し、中学校の保護者や教員向けのリーフレットを作成した。 ・大学入試での合理的配慮や発達障害のある生徒の就労など外部機関（三重大学や発達障害支援センター）と連携した取組を通して、多様な発達障害支援の取組を知る機会となり、専門性の向上につながった。 				

エ. 特別支援学校特別支援教育コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい支援員スーパーバイザー ・発達障がい支援員 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校コーディネーター 	6月26日	県人権センター	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき特別支援学校における発達障害に係る地域支援について ・特別支援学校のセンター的機能による地域支援の実施状況について ・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎに係る特別支援学校のセンター的機能の活用について
2		10月2日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における特別支援学校のセ

			ン 会議（高 等学校コ ーディネ ーター会 議合同開 催）	ンターの機能を活用した支援について ・講義①:「大学入試の合理的配慮について」 三重大学学務部入試課 福場 博文 講義②:「就労における障がいのオープン、クローズについて」 三重県自閉症・発達障害支援センター れんげ 本地 知加子
3		2月 4日	オンライン	・かがやき特別支援学校あすなる校の三次支援の状況 ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・特別支援学校センター的機能ガイドブックの改訂について
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校コーディネーターと発達障がい支援員が連携した高等学校への発達障害支援について、特別支援学校コーディネーターが対応可能な支援の内容や手続きについて整理し、高等学校の教員が特別支援学校センター的機能を活用できるようガイドブックに追記した。 ・かがやき特別支援学校の医療と連携した発達障害支援の内容について、他の特別支援学校コーディネーターに情報共有するとともに、小中学校の教員が発達障害支援をかがやき特別学校や特別支援学校に依頼する際の支援の内容や手続きについてガイドブックに追記した。 				

(3) 現状に即した教員養成課程における教授法の検討

ア. 授業シラバス作成のためのワーキング開催実績

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	・三重大学教育学部教授 ・特別支援学校コーディネーター ・三重大学教育学部特別支援教育コース学生（1年）	10月14日	オンライン	・特別支援学校等における発達障害支援の実情についての情報提供 ・発達障害に関する講座に対する将来教員を志望する学生等のニーズの把握 等
2	・県教育委員会特別支援教育課指導主事	10月28日		
3	・三重大学教育学部教授 ・県教育委員会特別支援教育課指導主事	12月 8日	三重大学	・授業シラバス案について

イ. 目的

国立大学法人三重大学と県教育委員会が協働し、令和元年度より、大学の教員養成課程において、必修となった「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（三重大学教育学部現行講座「特別支援教育入門」）の教育内容（特に発達障害支援）について検討し、地域や学校現場のニーズに対応した授業シラバス案について検討する。

ウ. 今年度の取組

- ・三重大学教育学部特別支援教育コース1年生（19名）と「特別支援教育について」「将来教員になって、発達障害支援を行うにあたり、大学の講義等で必要だと思う内容」について聞き取り（ワーキングの実施：第1回目）
- ・聞き取り内容を基に学生と現職教員との意見交換（ワーキングの実施：第2回目）
- ・大学教授と県教育委員会指導主事で意見交換（ワーキングの実施：第3回）

エ. 学生及び現職教員の意識

○特別支援教育コースの学生

- ・障害についての基礎的な知識や障害の特性に配慮した指導方法等を学ぶ必要があると感じている。
- ・大学での講義の他に、障害のある子供と関わり合うなどの体験的な学びが必要であると感じている。
- ・障害のある子供の生活や家族の気持ちを知ることが大切であると感じている。

○特別支援教育コース以外の学生

- ・特別支援教育については身近な問題とは意識していない。
- ・特別支援教育に関する知識や指導方法を習得する必要性をあまり感じていない。
- ・教員になった時に特別支援教育を担当することをイメージできない。
- ・特に障害が重度な子供への関わりや指導に抵抗感をもっている。

○現職教員

- ・障害に対する知識や指導方法を学ぶこと以外に、子供を支援するにあたっての心構えが大切であると考えている（障害の特性によって子供は何に困っていて、どのようにアプローチしていけばよいのか）。

オ. 授業シラバスへ反映することが望ましい内容

- ・発達障害支援を体験的に学ぶために経験の浅い教員や通級による指導担当教員、特別支援学校の教員等が講義に参加し、通常の学級における発達障害支援の現状について知る機会をもつ。
- ・通常の学級の担任になった場合、特別支援教育（特に発達障害支援）が身近な問題であることを意識できるよう、講座の早い段階で発達障害支援に関する内容を取り入れる。

カ. 次年度の取組について

- ・小中学校の通常の学級における発達障害支援の現状等について、現職教員が学生に講話を行う。（2回）
- ・現職教員が行う講話の内容や導入時期について、大学教員や現職教員によるワーキングを実施し、教育内容の検討を行う。
- ・授業シラバス案の具体的な内容を協議する。

5. 今後の課題と対応

発達障がい支援アドバイザーを中心とした県内の小中高等学校および特別支援学校のネットワークづくりを更に強化し、発達障害支援が継続的に提供できるよう、経験の浅い教員の専門性の向上や指導的立場の教員等の人材育成のための研修を引き続き進める必要があることから、令和3年度からは、以下の取組を行う。

- (1) 発達障害の可能性のある児童生徒への指導・支援に係る教員の専門性の向上を図るため、教員としての資質の向上に関する指標に対応した研修等を実施する。
- (2) 受講した教員が発達障害支援を担うにあたり必要とされる専門性が身についたかについて、各研修後に振り返り、教員の指導の実践力に関する評価を行う。その成果と課題について運営協議会で協議し、次年度の研修計画に反映する。
- (3) 通級による指導担当教員や特別支援学校コーディネーターでは対応が困難なケースについて

ては、発達障がい支援アドバイザーにつなぐなど、発達障がい支援アドバイザーを中心とした支援体制の構築について検討する。

- (4) 発達障害に係る広域的な支援や教員の経験に応じたサポートが円滑に行えるよう、特別支援学校センター的機能ガイドブックを活用して、相談窓口や手続き等について、各市町教育委員会、県立学校等に周知を図る。
- (5) 作成したシラバス案を可能な範囲で現行の講座内容に取り入れることで、教員養成課程における授業の改善を図る。

6. 問合せ先

組織名：三重県教育委員会

担当部署：三重県教育委員会事務局特別支援教育課